

災害（地震・火災・台風・事故等）に対する基本事項

1. 基本的心得

- (1) まず、身の安全を確保すること
- (2) 周囲の状況や正しい情報を的確に把握し、冷静に行動すること
- (3) 火災・事故等を発見した場合は、直ちに119番通報及び沖縄大学へ通報すること

2. 災害発生時の沖縄大学連絡先

- (1) 電話での連絡先（安否確認を含む）

	連絡先	担当部署
災害全般	098-832-3216	大学代表番号
学生の事故	098-832-7182	学生支援課
教職員の事故	098-832-6732	総務課
学内施設設備の事故(火災、 電気や水道等の施設設備の異常)	098-832-5575	施設課

- (2) メールでの連絡

学生支援課 gakuseika@okinawa-u.ac.jp

※災害発生時は大学から各学生に付与されているメールアドレス（～@okinawa-u.ac.jp）宛に安全確認や情報提供のメールを送付する場合がありますため、必ずメールを確認できるようにしておくこと。

※大学へ届け出ている連絡先の変更があればその都度変更手続きを行うこと。

災害（地震）発生時の対応

1. 基本対応

地震発生時	
1 まず、身を守る！	「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を見つけて身を寄せる。落下物等から頭部を守ること。教室では身を隠せる机の下などにもぐる。身を隠せる物が近くに無い場合は手元にある物で頭部を保護する（かばんや教科書、まくら等）。
2 すばやく火元の始末	火元、電気コンセント等が近くにある場合は速やかに処置をする（火を消す、ガスの元栓を閉める、コンセントを抜く、ブレーカーを落とす）。
3 非常口の確保	避難経路を確保するためドアを開ける
4 火災、救急等の連絡	消防署に正確な情報を通報する（119番）



地震直後	
1 火元の確認	火が出たら、落ち着いて初期消火をする。
2 周囲の人の安全を確認	倒れた家具等で下敷きになっていないか、周囲にけが人がいないか確認をする。
3 作動中の電気器具を止める	スイッチを切る。



地震収束後	
1 隣接する部屋（教室）等で助け合う	他の部屋・教室等にけが人がいないか確認をする。
2 その後の余震に注意	指定された避難場所に避難する。



避難場所で待機	
(学内では中庭・本館付近、学外では地域の避難場所を事前に確認しておく)	

2 具体的対応

(1) 学内にいたとき

状況	安全を確保する行動例
講義室、演習室、研究室等で授業中の場合	速やかに机の下等に身体(特に頭部)を隠し、出入口扉を開ける。 地震の揺れが収まったら、担当教員の指示に従うこと。
火気を使用中の場合	直ちに火を消すなどの安全措置を講じ、教室等の出入口扉を開け、速やかに机の下等に身体(特に頭部)を隠す。 揺れが大きい場合は無理をせず、揺れが収まってから火を消すこと。
廊下を通行中の場合	壁の近くに身を寄せ、安全に注意する。
エレベーターの中の場合	最寄りの階に停止させ、すぐに降りること。
渡り廊下または階段を通行中の場合	速やかにその場から離れ、近くの安全な場所に退避する。
体育館にいる場合	壁に身を寄せ、落下物に注意する。
生協・学生食堂にいる場合	物品及びガラス等の飛散に注意し、職員の指示に従う。
野外にいる場合	速やかに建物、高い壁、階段、送電線等から離れ、最寄の幹線避難路で身の安全を守る。

(避難時の注意点)

- ① 倒れやすい物には近寄らないこと。
- ② 火災が発生したら、周囲の人に知らせ初期消火に努めること。
- ③ けが人が出たら救護に努めること。
- ④ 建物内からの避難は、周囲の状況をよく見て冷静に判断し、不用意に戸外に避難しない事。
- ⑤ 落ち着いたら、下記へ所在及び安否を連絡すること。
 - ・学生支援課
 - ・ゼミ教員

(2) 学外にいたとき

まずは、その場で身の安全を確保すること。

落ち着いたら学生支援課、ゼミ担当教員のいずれかに所在及び安否を連絡すること。

自身の安全や周囲の状況に応じて、救護活動に協力すること。

その他

- ・本人及び友人に関する知りうる安否などの情報を学生支援課やゼミ教員に連絡する。
- ・災害用伝言ダイヤル(171)を利用する。

※ https://www.ntt-west.co.jp/dengon/pdf/171brochure_a4.pdf

- ・携帯電話各社のホームページを参考に緊急地震速報の配信を設定・確認する。
- ・SNS等の確信がもてない情報を安易に信用しないこと。
- ・チェーンメール等は、必要な通信・情報の邪魔になるため絶対に行わないこと。